ninoyu satoshi
発行所:自由民主党京都府参議院選挙区第三支部
〒615-0062 京都市右京区西院坤町2
ハウスドゥ四条ビル601
TEL.075-315-2228 FAX.075-315-2310
発行人:二ノ湯 智
国会事務所
〒100-8962 東京都千代田区永田町2-1-1
参議院議員会館921号室
TEL.03-6550-0921 FAX.03-6551-0921

えとす(Ethos)とは、文化や習慣を意味し、豊かな精神をはぐくみ、平和を希望する言葉です。
題字:栢木寛照

えとす

令和3年 5月号
No.331

京都の智恵を日本に活かす。
二ノ湯智ホームページ http://www.ninoyusatoshi.com

大規模接種始まる どうなるのか直前に控えたオリ・パラ

苦悩が絶えない菅首相

東京、大阪、京都、兵庫に緊急事態宣言が発令され、コロナも収まるかに思えたが、感染者は増え続けた。政府は宣言の延長を行い、さらに爆発的に増えてきた北海道、愛知、福岡、広島、岡山も緊急事態宣言地域に指定し、23日から沖縄も追加した。そして、感染を徹底的に防ぐため、再延長を決定した。一体この先、どうなるのであろうか。国民の不安は日毎に高まっている。24日から、東京、大阪で実施される大規模接種会場での受付が開始された。1日でも早く接種したいと思っている人が多く、申込者が殺到して、混乱が心配されたが、順調に受付が終了した。この調子ならば、菅首相が期待している7月末には、完了するのではないか。一方、感染者が減少しない実状を見て、7月のオリンピック、8月のパラリンピックの開催に否定的な声が高まってきているのも事実である。マスコミの世論調査でも開催に反対する声が過半数を超えている。オリンピックまであと2ヶ月と迫ってきている。残念ながら、50年前のオリンピックへの高揚感が、国民の間に全く見られないのは残念である。

参議院予算委員会で、感染対策を講じ、国民の命と健康を守って、オリパラを開催すると答弁する菅首相

恒心

★NHKの朝の連続テレビ小説「おちょやん」が終わった。若い世代には、全く馴染みがないが、終戦後、ラジオ、映画で大活躍した浪花千栄子さんの苦労と辛抱の半生を描いたドラマ。ドラマだから、脚色があり、事実でない部分もある。大筋では、その人の人生であろう。★その前の番組は、作曲家古関裕而さんの一生を描いたドラマであった。それまで、古関裕而という人に、特に関心がなかったが、軍歌、歌謡曲、応援歌、そして東京オリンピックの行進曲、あらゆるジャンルの歌を作曲し、国民に勇気と感動を与え続けた作曲家であることが分かった。★NHKオンデマンドで大河ドラマも見ている。特に「八重の桜」は見ごたえがあった。私は参議院総務委員会で「八重の桜」にクレームをつけたことがある。会津若松を代表する女性は山本八重ではなく、山川捨松(東大総長山川健次郎の妹、12才で米国留学、大山巌の妻で鹿鳴館の花と言われた)ではないのかと質した。その考えは、今でも変わらない。★「八重の桜」を観賞することによって、ペリーの黒船来航以降の、幕府や各藩の動きと戊辰戦争での会津藩の役割、そして八重の兄・山本覚馬(京都府顧問・初代府議会議長)を通じての京都の近代化、さらに、同志社大学設立に情熱を傾ける新島襄の苦労などが理解できた。★今、大河ドラマは渋沢栄一の生涯を描く「青天を衝け」である。渋沢を通じて、幕末から明治への日本の近代化、資本主義経済発展の過程が学べるのではないかと密かに期待している。テレビドラマを通じて、その周辺の事にも興味が湧き、思わぬ余得と喜んでいる。

京都府議会議長　菅谷寛志氏
京都市会議長　田中明秀氏

5月19日、京都府議会は新しい議長に菅谷寛志氏を選出した。菅谷氏は第82代京都府議会議長である。5月20日、京都市会は田中明秀氏を選出した。田中氏は第85代京都市会議長になる。京都の議長は、府議会、京都市会とも、明治時代に地方議会が開かれて以来、全国地方議会の指導的立場にある。前議長、田中英夫氏は都道府県議長会々長として、地方議会の懸案の課題、とりわけ議会の位置づけ・権限・議員の職務等を、法律に明確にするように政府に強く働きかけ、地方議会の要望実現に大きく貢献した。菅谷氏も田中議長に負けず劣らず、地方議会の発展に力を尽くして貰いたい。市議会は東京都23区、792市を含め、全国815市区議会がある。旧五大都市は(横浜、名古屋、京都、大阪、神戸)は、他の市とは違って、特別な権威、伝統がある。本来は市議会議長と呼ぶべきであるが、五大都市に限って市会と呼び、議長は市会議長と呼ぶ。議員はそれだけ強いプライドを持っている。地方政治は首長も議員も、ともに有権者から直接選ばれるが、首長と議員の役割は必ずしも一緒ではない。二元代表制の一翼を担う立場として、地方議会に与えられた権能と役割を自覚し、時には知事、市長と厳しく対峙し、緊張関係を持ちつつ、京都府、京都市の発展に大いに力を尽くして貰いたい。

京都府議会議長　菅谷寛志氏

議長選出後、
議場で就任挨拶をする菅谷新議長

昭和36年(60才)京都市生まれ。京都大学大学院修了。衆議院議員奥田幹生秘書を経て、平成11年38歳で府議会議員初当選(現在6期)、府監査委員、関西広域連合議会議長、自民党京都府連幹事長を歴任。

◆抱　負◆

この度、京都府議会の第82代議長に就任致しました。その重責に身の引き締まる思いです。今日のコロナ禍にあって、医療・検査体制の拡充、ワクチン接種体制の確立、そして社会・経済の立て直し等、私たちはコロナとの戦いに勝利しなければなりません。西脇知事・行政と議会がしっかりと連携し、府民の安全・安心・生活を守り抜いて参ります。そして地方自治の本旨に基づき、二元代表制を担保するために議会の権能を最大限発揮し、よって住民自治の更なる発展に取り組む所存です。皆様の温かいご支援を心からお願い申し上げます。

京都市会議長　田中明秀氏

議長選出後、
議場で就任挨拶をする田中新議長

昭和36年(59才)、京都市生まれ。あべの辻調理師専門学校フランス校卒。自民党京都府連青年局次長、副幹事長、京都市会教育福祉委員長、市会改革推進委員長、産業交通水道委員長、京都市監査委員。

◆抱　負◆

このたび、130年を超える歴史と伝統ある京都市会第85代議長に就任させていただくことになりました。身に余る光栄であり、その職責の重さに身の引き締まる思いです。京都市は新型コロナ感染症対策とともに財政危機にも直面する中、何よりも市民の皆様のいのちと暮らし、安心・安全を守り、この局面を乗り越えるために、全力を傾注する決意を新たにしているところです。市会の責務は行政に対する監視機能や政策提案・立案機能などとともに、その活動を早く、広く、正確にお伝えすることが重要です。今後議長として「見える市会」「伝わる市会」の取組をより一層進めてまいります。

深刻な地方議会議員のなり手不足
立候補規制緩和の動き

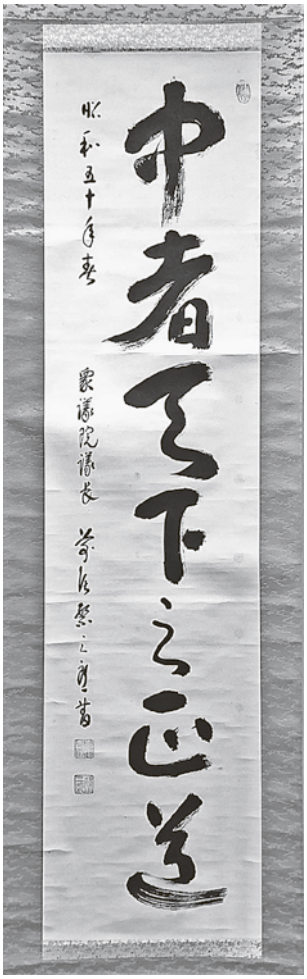
小規模自治体の議員のなり手不足は、非常に深刻である。数年前、高知県大川村では、議会を廃止して、代わって町民総会を設置しようという動きがあった。幸いに地元の人達による立候補者発掘の努力の結果、数人の立候補者が名乗りを上げ、議会が維持出来た。小さな自治体議員の待遇は、一般のサラリーマンと比較して、非常に低い。議員報酬は低額で、とても生活をすることが出来ない。年金制度もなく、議員退職後、無年金となってしまう。従って、若い人で、地方自治に関心があっても、一般勤労者と比較して、余りにも貧弱な待遇のため、立候補することをためらってしまうのが現実である。もちろん、それだけが理由ではない。小さい自治体では、町の役場との請負(仕事上の取引関係)のある人が多い。現在では、個人で自治体と請負関係がある人は、法律で立候補出来ないことになっている。それは余りにも厳し過ぎるのではないか、少し緩和してほしいと、かねてより全国の地方議長会から要望があった。関係者が検討を重ねた結果、役所との請負金額が、300万円程度なら規制の対象から外し、立候補出来るように地方自治法を改正しようとする動きが出てきた。改正によって、議員のなり手不足の解消にはならないが、先ずは出来ることから手をつけようとした。

前尾先生の書
遺族から二ノ湯議員に贈呈

二ノ湯議員が秘書として仕えていた前尾繁三郎先生(宮津市出身)は自民党の幹事長、数々の大臣、そして衆議院議長を歴任し、政界随一の読書家であり、書にも優れた文人政治家であった。選挙区であった地域を回ると、いまだに消防団の詰め所、公民館などに前尾先生の書が掛けられている。先日、前尾先生の甥から先生の書を形見としてあなたに貰ってもらいたいとの連絡があった。何幅かあったが、「中者天下之正道」を選んだ。昭和50年、先生が衆議院議長時代の書である。昔の人は字が上手いと言えば、それだけの話であるが、今の世代、政治家も書道離れが甚だしく、お世辞にも上手とは言えない。ひと昔前なら、地域の有力者宅を訪ねると、玄関先に、政治家の揮毫が掲げられていた。今は、そんな家は見かけない。伝統文化を大事に継承することが、保守政党・自民党の役割と使命である。大いに反省すべきである。

中者天下之正道とは

南宋の朱熹(朱子学の祖)が著した「中庸宇章句」にあり、右にも左にも偏らず、生きていくのが世界の正しい道であるという意味である。権力に媚びず、我が道を行った先生の生き方にぴったりの言葉である。先生70才の作品である。



掲示にご協力有難うございます
各選挙区のポスターが刷り上がり

先月号で次期衆議院総選挙を睨んで各選挙区支部長と参議院議員との連名のポスターの掲示をお願い致しました。お陰様で多くの方々から、ご協力の声が届きました。当初、1選挙区500枚程度の掲示を目指しておりましたが、なんとか目標数を達成出来そうです。今後、出来るだけ多くのポスターを掲示し、有権者の皆様に、広報したいと考えております。ご賛同賜れば、事務所にご連絡頂くか、先日「えとす」に同封致しました葉書をご返送下さいますようお願い申し上げます。

◀京都府第1区

◀京都府第2区

◀京都府第3区

◀京都府第4区

◀京都府第5区

◀京都府第6区

コロナ禍に問われるリーダーのモラル

東京都にまん延防止等重点措置が発令されていた4月20日、日本医師会の中川俊男会長が、自身が後援会長を務める自見英子参議院議員の政治資金パーティーに他の役員14名と出席していたことが明らかになりました。

中川会長は連日メディアに登場し国民や政府に対して厳しい注文をしてきた張本人ですが、ご自身の行動に関しては脇が甘かったようです。その後の対応もお粗末で、日本医師会の記者会見も途中退席して記者の質問から逃れるなど、自らの説明責任を果たすつもりはないようです。

ちなみに多くの国民は日本医師会がすべての医療関係者の代表のように錯覚している節があるのですが、実態は開業医中心の業界団体であり、コロナの最前線で戦って下さっている大学病院や公立病院などとは利害関係や考え方に相違があることも付け加えておきたいと思います。

1年以上に及ぶコロナ禍において、政治家や官僚といった国民に行動制限をお願いする側の人たちのモラルが問われる場面が相次いでいます。昨年12月14日の菅首相、二階幹事長らのステーキ会食をはじめ、松本衆議院議員らいわゆる「銀座三兄弟」、女性とラウンジを訪れた白須賀議員、銀座のクラブを訪れた公明党の遠山議員、緊急事態宣言下で性風俗店を訪れた高井議員、23人で深夜まで送別会を開催した厚労省。いっぽう地方自治体においても、20人の県議会議員と会食をしていた飯泉徳島県知事(ちなみにこの方は全国知事会会長)、自身の後援会員90名と会食した谷本石川県知事、100人規模のゴルフコンペに参加した三日月知事など枚挙にいとまがありません。

やはり「自分たちは特別だ」との特権意識があるのでしょうか。コロナ禍による経済ダメージは平成の30年で拡大した格差をあぶりだし、低所得者層を中心に大きな影響を与えているにもかかわらず、こうした苦しみに鈍感なリーダー層のあり方が際立っています。この有事において、国民、県民・府民との信頼関係がベースにないと、いくら宣言や措置を振りかざしても実効性は上がらないのですが。

桜美林大学客員教授
二之湯 武史

わいせつ教師再任禁止法案 超党派議員で提案

教師による児童生徒へのわいせつ行為は大きな社会問題となっている。わいせつ行為の原因は、現在の医学では治癒することは出来ないようである。従って、このような教師が、再び教壇に立つことが出来ないようにすることが、再発防止に有効な手段である。現在、教職員は、都道府県、及び政令指定都市教育委員会が採用する。例えば現在、京都市の学校でわいせつ行為で懲戒免職になり、免許を失っても、数年後、また免許を取得でき、京都府の教員採用試験を受けて教壇に立つ可能性がある。これを防止するため、今回、わいせつ行為で懲戒免職になった履歴を文科省が一元管理し、問題教師には教員免許を原則再発行しないことにする。委員長提案として提出され、おそらく今国会中には成立するものと期待されている。

「新政経懇話会」入会のお願い

「新政経懇話会」では、機関紙「えとす」の発行をはじめ、二ノ湯さとしの政治活動をご支援いただける会員を募集しております。

是非、二ノ湯さとしの政治理念と主張にご賛同いただき、ご入会下さいますようお願い申し上げます。

新政経懇話会

年会費　1口1万円

入会申込・お問い合わせ先

二ノ湯さとし事務所　☎075-315-2228

身辺雑記

一、外務省が毎年発行する「外交青書」で、習近平国家主席を国賓として迎えることについて日程を調整する段階ではないと記述した。今日の中国の覇権主義を考えればそんな環境にはないし、日本国民は決して歓迎しない。

一、防衛白書が発行された。改めて日米同盟の重要性が強調されているが、まさかの時のアメリカ頼りでは、全く虫の良すぎる話である。日本が独自で我が国を守るために何ができるのか真剣に考える必要がある。

一、4月25日、北海道、長野、広島での衆参選挙で自民党が敗れた。長野はともかく、北海道、広島は自民党議員の不祥事による選挙。有権者の厳しい審判が下された。予想通りの結果だとは言え、自民党は謙虚に反省しなければならない。

一、ワクチン接種が順調に進まない。しびれを切らした菅総理は、実務を担う地方自治体に協力を要請した。参議院自民党は、3月、コロナ禍における自治体に意見を聴取し政府に届けた。我々の意見に耳を傾けていれば、上手くいった筈だ。

一、私が通っていた三重県の片田舎の小学校では、同級生が幼い妹を負ぶってきて、授業中教室の後ろの方で遊ばせていた。家の手伝い、弟妹(ていまい)の世話をするのが当たり前であった。今それがヤングケアラーといって社会問題となっている。